

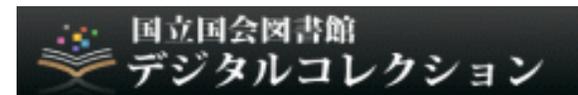
西園寺公望関係文書（橋本実梁旧蔵） 目録

国立国会図書館憲政資料室

2020/3/17目録作成

この資料は国立国会図書館デジタルコレクションで公開しています

<http://dl.ndl.go.jp>



目録・最新の概要情報はウェブサイトに掲載しています

国立国会図書館リサーチ・ナビ「憲政資料室の所蔵資料」

<http://rnavi.ndl.go.jp/kensei/>

リサーチ・ナビ
国立国会図書館

西園寺公望関係文書(橋本実梁旧蔵)目録

資料 番号	枝番 1	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
1		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治3年〕1月29日	1通	長崎への出発が感冒で遅れたが、2月10日までに出発する予定		墨書		
2		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治3年〕4月13日	1通	長崎着報告、長崎行の途中、大和旅行を楽しむ。道々、苛政が行われている地も多く、国勢民力が日々衰えているようで慨歎。		墨書		
3		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	明治3年12月28日	1通 (4枚)	サンフランシスコより。横浜からの同地への船中やサンフランシスコの様子。同地の繁華には驚くが洋学者のように屈しないようにしたい。		墨書		
4		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	明治4年4月26日	1通	パリ着、府下学校に入塾。パリコミュニン平定の模様と感想。奢侈に流れるなどの日本人留学生の情況に慷慨。		墨書		
5		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	明治4年9月30日	1通 (2枚)	欧州の悪習や日本人評について英国人と交わした会話。廃藩置県の報に雀躍。		墨書またはペンカ		前2枚欠。
6		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治6年〕5月21日	1通	フランスの政争状況、無学の頑民や宗旨教法を批判。我国民は実地之学を学びはじめた。西洋は無頼の教師。		墨書		
7		西園寺公望書簡 (橋本実梁)宛	西園寺公望	〔橋本実梁〕	〔明治6年〕	1枚	尊嫡逝去、驚愕の到り		墨書		前欠。
8		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治10年〕1月25日	1枚	学資落手。華族会館の件は委細承知。帰国旅費800円ばかり送付希望。		墨書		
9		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治6年〕	3枚	自費留学生呼還の指示がある模様、苦心は尽く水泡に。家禄は一文も不要だが、学資を絶つことはできない。半年分の学資500両ばかり送付希望。		墨書		
10		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治6年〕11月18日	1枚	私費留学生を呼還すと云は誤ならん		墨書		前欠。
11		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治8年〕4月16日	4枚	万柳二家に対する学資に関しての金策相談。かねての借金は1200円に到る。		墨書		

西園寺公望関係文書(橋本実梁旧蔵)目録

資料 番号	枝番 1	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
12		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治7年〕6月9日	1枚	自費留学の策がたち、再生之心事。台湾征伐等新事の首尾を知らせてほしい。西洋の新聞は情報が錯出。		墨書		
13		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治7年〕7月14日	1枚	尊諭を遵し節儉之二字を忘れない。家扶直全提案の送付金額に苦情があり、徳大寺へ訴える。欧地の文明開化とは軽佻浮華の謂ならん哉。	書簡内容摘記の紙片、1枚(和紙)	ペン		
14		西園寺公望書簡 徳大寺実則・橋本実梁宛	西園寺公望	徳大寺実則(宮内卿)・橋本	〔明治8年〕7月16日	2枚	太田徳三郎の尽力で仏貨3000弗蘭、英貨100封度を来年1月30日を期限に借用できた。期限までに返済できるよう調達してほしい。太田は山田、伊藤、井上など随分金権の有る者と懇意。		墨書		
15		西園寺公望書簡 浜崎直全宛	西園寺公望	浜崎直全	〔明治7年〕10月8日	1枚	学資500金落手。台湾軍事之事、真事御報知願う。夏に微恙にかり田舎に生活するが快復。書籍に頭を埋めている。威鷹にそろそろ洋学を学ばせてはどうか。	書簡内容摘記の紙片、1枚(和紙)	墨書		
16		西園寺公望書簡 徳大寺実則・橋本実梁宛	西園寺公望	徳大寺実則(宮内卿)・橋本	〔明治9年〕1月10日	1枚	金貨等落手。公使館が掛合い、仏国文部卿の許可を得て法学生となった。試験は苦心したが立派に及第。朝鮮征伐再燃、廟堂の諸公、薩の芋連を恐れること蛇蝎のよう。		墨書		
17		西園寺公望書簡 徳大寺実則宛	西園寺公望	徳大寺実則	〔明治9年〕8月1日	6枚	当年半期分の学資落手。遊学六年で学術進歩の実なし、兄の訓戒は服膺せざらんや。華族会館の件、同意。欧州貴族の法律の学び方、欧州の貴族は吾の華族と其性質大いに異なる。		墨書		
18		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治12年〕11月29日	1枚半	威鷹の件、驚愕、戦慄するが、徳大寺からは知らせはない。旧臣賞典は至当。弊家家計表落手、縷々ご苦心、感泣。		墨書		
19		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治10年〕12月24日	1枚	銀行の代印、謹領。しかし銀行は有害であるので皺眉。西南戦争平定を賀す。		墨書		
20		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治12年〕7月8日	2枚	復叙御請書を再送。威鷹の件、母よりの願ではあるが、上は朝廷、下は弊家祖宗の名に関することゆえ、聞き入れたくない、一度義絶を願う。金策の件感泣。明朝又々大学校の試験で多忙		墨書		
21		西園寺公望書簡 徳大寺実則・橋本実梁宛	西園寺公望	徳大寺実則・橋本実梁	〔明治11年〕8月23日	2枚	600円落手、帰邦の件、帰邦する井上馨に宛て手紙を託したので両者が相談するのを待つ。もう2年留学できれば吾邦へ益を還元できようが、明年夏秋之交に帰朝と内決。	書簡内容摘記の紙片、1枚(和紙)	墨書		
22		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治12年〕9月30日	4枚	1300円到着。愈々明年中には帰邦と決定、旅費送付依頼。宮内省より学費送付、遅々にて困却、貧書生は融通を第一とす。参議改変、内閣の喧嘩その後如何。	書簡内容摘記の紙片、1枚(和紙)	墨書		

西園寺公望関係文書(橋本実梁旧蔵)目録

資料 番号	枝番 1	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
23		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治12年〕 1月2日	2枚	宮内省から2年で300円恩賜、感泣、一層発憤。旧賞典録は意に符合。威嚇は実家に戻すと決心。1800円中600円落手、期限が迫っているので残りも追々送付願う。少年の借金問題に対する欧州における司法判断。		墨書		
24		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治13年〕 2月6日	1枚	帰朝旅費、感泣。年内に吾邦之土を踏む予定。		墨書		
25		西園寺公望書簡 浜崎直全宛	西園寺公望	浜崎直全	〔明治12年〕 7月29日	2枚	女性と子供と同行帰国するという説を、真平御面と否定。課業暇なく囊中常に乏しい。明年愈々帰国と決す。		墨書		
26		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治12年〕 10月25日	1枚	録券、すべて謹領。明年7月仏国開帆と決定。旅費は体の具合がよくないので上等の船房を買い取りたい。書籍も買うので800円あればよい。		墨書		
27		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治13年〕 1月1日	1枚	本邦と支那の葛藤も全氷解、非常の豊作。秋冬の交には帰邦。ロシア、イギリス、スペイン、フランス政情、文明開化之國、その開明は何にあるのか。		墨書		
28		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治13年〕 6月25日	1枚	仏貨500フランを貸りた英国公使館書記官鈴木金蔵が帰国したので、返済してほしい		墨書		
29		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治13年〕 10月10日	1枚	昨日、香港まで着。来月22か23日頃横浜着。		ペン		
30		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治14年〕 3月2日	1枚	50金ばかり拝借したい。過日分を合わせ、5、6日には返済。委細は浜崎から聞くように。		墨書		
31		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治14年〕 3月11日	1枚	株券売却の事、一日も早く運びたい。10株売り払い、夏向の必要物品と一家の体裁をなすための道具を求めたい。		墨書		

西園寺公望関係文書(橋本実梁旧蔵)目録

資料 番号	枝番 1	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
32		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治14年〕 3月25日	1枚	新聞社に今日も出社、意外の盛大、断りの道なし。川崎督之進を派遣するので、過日依頼した品をおわたしくだされば大幸。		墨書		年月日の原表記は5月 (内容により4月と推定)
33		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治14年〕 3月31日	1枚	過日内諭のこと、徳大寺へ手紙を書いたが返ってきたので、三条に依頼に行く。過日書面で依頼した件の返答は如何。		墨書		
34		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治15年〕 4月2日	1枚	今日シンガポール着。横浜迄の御送別に千謝。留守中のお願い。		墨書		
35		西園寺公望書簡 橋本実麗宛	西園寺公望	橋本実麗	〔明治15年4月〕 11日	1枚	出立前参殿ならず遺憾、横浜出立後、明日セイロンに到着予定。柳原へは一部、品を返却。澎湖では有名なクールペーに面会。仏軍艦中には数百の支那虜囚がおり、虐待を受けている、東洋のために慷慨。		ペン		年月日の原表記は5月 (内容により4月と推定)
36		西園寺公望書簡 橋本実穎宛	西園寺公望	橋本実穎	〔明治15年〕 6月1日	1枚	出立前依頼した独国留学費は1ヶ月銀貨80円必要。1ヶ月40円では衣食用にもいかがか。		墨書		
37		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治15年〕 6月11日	1枚	去月16日、ベルリンに解鞋。旅次では、清国、エジプト、イタリアに立寄り、めずらしいものが多くあった。柳原前光に面会。		墨書		
38		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治15年〕 11月10日	1枚	柳原の書簡落手。御昇進と叙勲を賀す。パリ、ウイーン、ウダベストで見聞を広める。有栖川王にも度々面晤、随行皆々盛ん。朝鮮事件には驚いたが、好結果で雀躍。出発から8か月、取調等		墨書	太政官 野紙	
39		西園寺公望書簡 光妙寺三郎宛	西園寺公望	光妙寺三郎	〔明治15年〕 11月14日	1枚半	ウイーン滞在の後、ベルリンへ帰寓。先ごろは韓事の余波で奔走していたが、今は閑が多くドイツ語を学ぶ、成就するかわからない。上野夫妻に面会、妻は吾邦一之美人。		墨書	太政官 野紙	
40		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治15年〕 11月28日	1枚	実麗死去の報、驚愕かつ遺憾、大兄御悲哀を遠察、弊家のための御高配、筆舌につくせず。		墨書	太政官 野紙	

西園寺公望関係文書(橋本実梁旧蔵)目録

資料番号	枝番 1	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
41		西園寺公望書簡 浜崎直全宛	西園寺公望	浜崎直全	〔明治15年〕 11月29日	2枚	橋本実麗の死、遺憾。本邦韓事業、瑞雲蕩々。澳国の一郡を奪って吾有するよりも新柳両橋に間に彷徨するのみ。		墨書	太政官 罫紙	
42		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治16年〕	1枚	意外に長滞留となり、1、2か月中には帰途に向かう。欧州平穩、奇事なし。柳原前不日帰邦。		墨書		
43		西園寺公望書簡 橋本実梁宛	西園寺公望	橋本実梁	〔明治16年〕 6月12日	2枚	伊藤参議ら皆々御用が済み、24日に帰国の途に、来8月10日に横浜着予定。銀座服部方にて一時占寓予定。		墨書	太政官 罫紙	
44		柳原前光書簡 橋本実梁宛	柳原前光	橋本実梁	〔明治2年〕1 月23日	1枚	大沢甚之丞の件、勤王と承知。海江田五位に面会の節に噂しておく。家父疝気にて隠居願状を出したが許容不分。五大州遊歴、ロンドンで学生修業を行いたく、英国公使との談判が済めば2、3月中には出帆予定、前光のほか公望卿など4、5人が願うだろう。一昨日具視卿輔相免ぜられる。		墨書		旧資料番号 B1
45		柳原前光書簡 橋本実梁宛	柳原前光	橋本実梁	12月26日	1枚	聖体22日御還幸。還幸、東北列藩の処置について敬承。宇和島伊達家との婚礼、すでに入興しているが、宇和島藩兵の箱館出張の御届に不都合があり当主が自主謹慎中にて婚儀を催せず。		墨書		旧資料番号 B2
46		柳原前光書簡 橋本実梁宛	柳原前光	橋本実梁	明治14年11月 2日	1枚	西園寺氏新聞退社についての世評、同氏も一件後は持重。西園寺の退社や一条忠貞の離婚についての内勅は不穩当。先月大隈辞職で内閣一変、参議省卿兼任旧来に復す、河野辞官を電報にて知る、明治第二新の機運。		墨書		旧資料番号 B3

西園寺公望関係文書(橋本実梁旧蔵)目録

資料 番号	枝番 1	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
47		柳原前光書簡 橋本実梁宛	柳原前光	橋本実梁	明治14年6月4日	1枚	西園寺氏が宮内卿からの内勅で新聞社を退社、各新聞報道や朋友よりの書翰にあり。新聞の論説にも名論少なく、氏の名望も落ちたとの話だが、華族の新聞社長を禁ずる国法はなく、内勅が下ったのは、仏国流の精神と、干渉する者との極度と極度の軋轢の結果。竹馬の旧友として放言を聞いても忍ぶ。	(1)包紙(「西園寺公望侯柳原前光伯書状」)、1枚 ／(2)一枚物(厚紙)、1枚 ／(3)一枚物(書簡覚書)、9枚 ／(4)封筒「陶庵筆並作隻五六在中」、1枚 ／(5)封筒「永久保存分」、1枚 (付属資料(2)～(4)は、もと(1)に包まれていた)	墨書		旧資料番号 B4